

はじめに

このドキュメントは、IT資産管理Rudeusクライアントの概要と使い方について説明します。

概要

Rudeusクライアントは、IT資産管理システムErisのクライアントアプリケーションです。

管理サーバErisと通信し、デバイスの登録、情報の更新、アクセスログの取得などの機能を提供します。

下図は、RudeusクライアントがErisと通信する際のイメージです。

[!rudeus-ab](#)

このドキュメント内では上の常駐プログラムをクライアントまたはRudeusと呼びます。

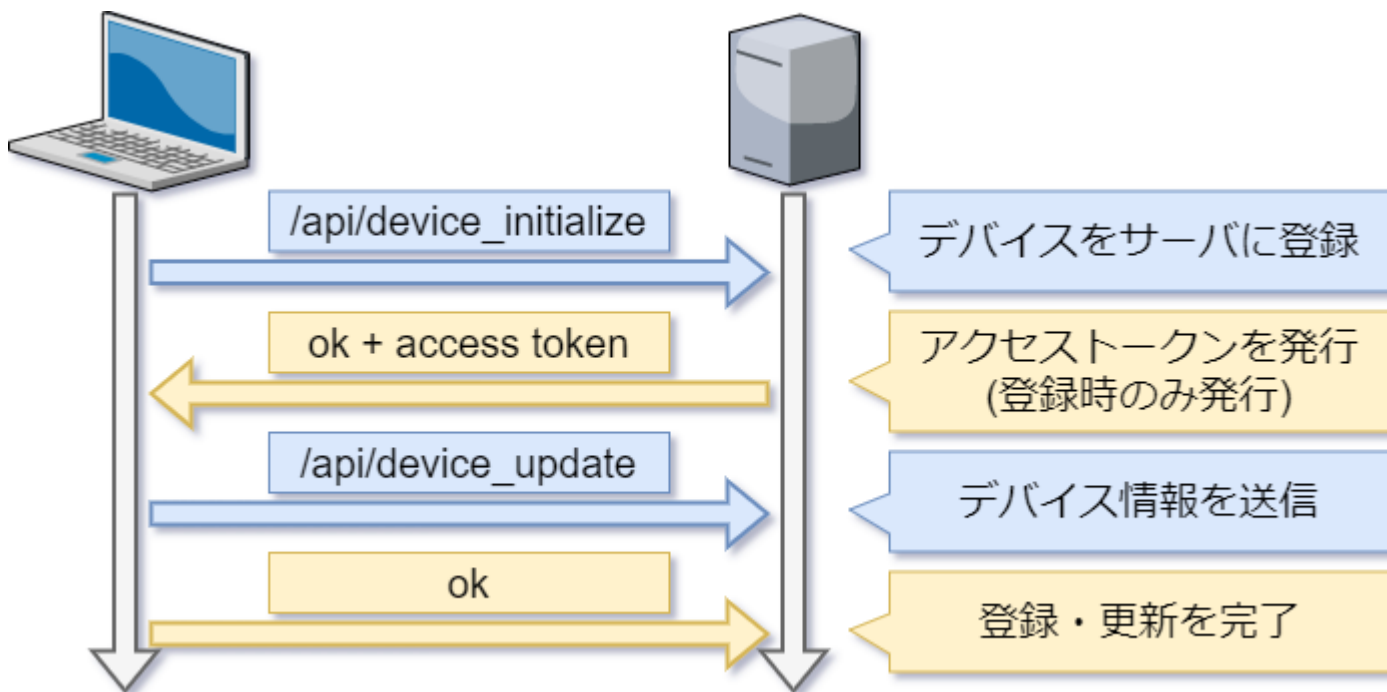
運用方法

動作の流れ

Rudeusクライアントは、REST APIを使用して管理サーバと通信します。

操作に使用するREST APIについて説明します。

デバイスの登録



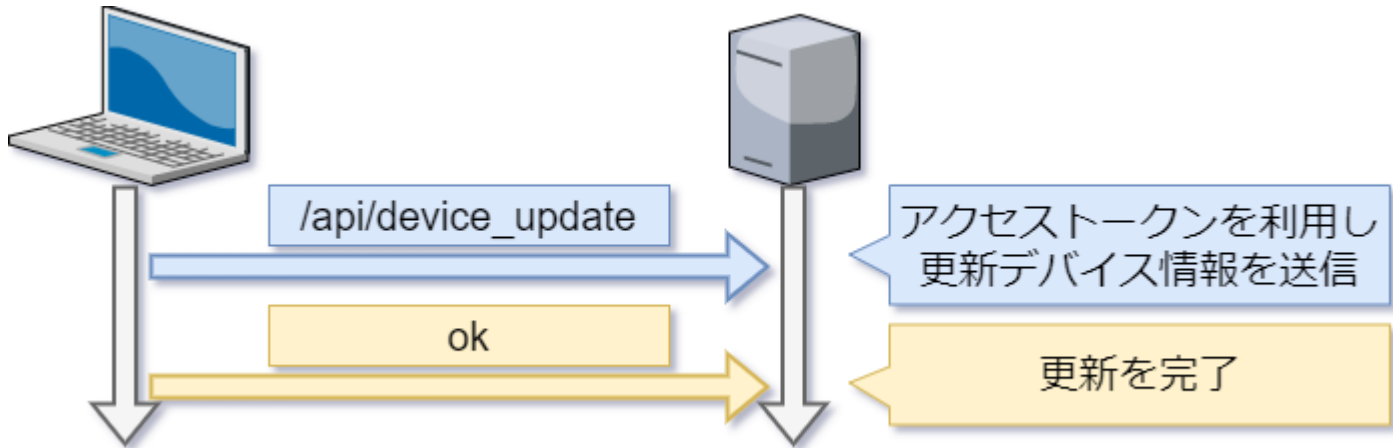
デバイスを登録するためには、`/api/device_initialize`を使用します。

このAPIは、デバイスを初期化し、アクセストークンを発行します。

初期化後には、デバイスの情報を更新するためのAPIを使用します。

`/api/device_initialize`を除くすべてのAPIは、初期化後に発行されるアクセストークンを使用して認証されます。

デバイス情報の更新



デバイス情報を更新するためには、`/api/device_update`を使用します。

このAPIは、デバイスの情報を最新の状態にします。

その他のドキュメント

管理サーバErisについては、[こちら](#)でデモとドキュメントをご覧ください。(ユーザ/パスワードはadmin/adminです。)

管理サーバのテーブル定義は[こちら](#)

APIの詳細なリファレンスは[こちら](#)

開発時のメモは[こちら](#)

Namespace Rudeus

Classes

[Constants](#)

定数を定義するクラス

[Utils](#)

ユーティリティクラス

Interfaces

[Utils](#)

ユーティリティクラスのインターフェース